

## FISIM のどこがだめなのか？

専修大学 経済学部

作間逸雄

### 要旨

本稿は、前稿「FISIM をめぐる覚え書き」（英文版『季刊国民経済計算』第 132 号、2006 年）の続編である。前稿では、1993 年版の SNA で本則として導入され、その後、部分修正されて改めて提案され、その改訂版（2008SNA）に含まれることになる、参照利子率を用いた FISIM の測定と配分について、その概要と問題とを議論した。本稿では、改訂作業の完了を受け、そこに含まれる FISIM の取り扱いについて、改めて、その欠陥を議論する。要約すると、提案された FISIM 測度は、特別なケースを除外すれば、参照利子率の選択に依存する測度となり、それは、参照利子率として選択された特定の利子率によって資金調達・資金運用可能なことにもとづく利得を示すものと考えることが適切である。その利子率にアクセスすることができない金融機関にとってそれは無意味な指標となり、アクセスできる金融機関にとっても、決して適切な産出指標とみなせるものではない。中央銀行の取り扱いについても関連して議論する。